

出題分析		
試験時間 60 分	配点 50 点	大問数 5 題
分量 (昨年比較) [減少 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/>	難易度変化 (昨年比較) [易化 <input type="checkbox"/> 同程度 <input checked="" type="checkbox"/> 難化 <input type="checkbox"/>	
【概評】 大問数は5題, 小問数は39問で昨年と同じであった。〔I〕が写真を用いた雑題, 〔II〕に古代ギリシア・ローマ史, 〔V〕に西洋美術史が出題される構成は昨年から踏襲された。過去に三年ほど出題されていた「二つ選ぶ」形式の問題は消滅した。加えて昨年に難問が目立った史料問題も消滅したが, 単純な細かい用語の出題が増えた。このため難しさの方向性が変わったものの, 長期的な難化傾向が維持されている。		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	石像・彫像・遺跡の写真を用いた出題	設問1は難問。資料Aは「ヴィレンドルフのヴィーナス」と呼ばれるオーストリアで発見された旧石器時代の石像である。選択肢のうちで旧石器時代の説明はエ。設問2も難問。フランスの調査隊が発掘したのはラガシュである。ウルを発掘したのはイギリスの調査隊。設問4も細かい。イとウの2択までは絞りたい。ウはオルメカ文明が青銅器を持たない文明であるので誤文。	難
II	古代ギリシア・ローマとルネサンスの文化	細かい文化史の設問が並ぶが, 設問3以外は正解したい。その設問3のa, アガメムノンはミケーネの王でありトロイアではない。設問5, ウのコロッセウムは1世紀後半の建造物。設問7, イのアーサー王はケルト人の英雄とされている。	やや難
III	朝鮮半島史	設問1, 朝鮮と接していた国は燕。燕や齊といった華北の東側で流通していた青銅貨幣は刀銭である。設問2の日南郡は, 2世紀後半に現地人が独立してチャンパーを建国したことも押さえるおきたい。設問3のウは日本史探究では学習する曇徴という僧である。世界史探究の知識だけで解く場合は消去法になるだろう。設問5はア(8世紀)→エ(10世紀前半)→ウ(13世紀後半)→イ(16世紀末)なのでエが正解。設問8, イのアダム=シャルはドイツ出身。	標準

設問別講評			
IV	モンゴル帝国の西アジア征服	設問1, ウの『アクバル=ナーマ』は側近が著述したもので自著の回想録ではなく, またペルシア語で書かれた。設問5, ティムールはチンギス=カンの血を引いていなかったため, 血を引く女性と結婚して台頭した。モンゴル帝国崩壊後の遊牧世界ではチンギス家系の血統が重要視されていた。歴史学ではこれをチンギス統原理と呼ぶ。設問6はアッバース朝滅亡後に起きた出来事を選ぶという設問条件に注意。	標準
V	西洋美術史	定番の西洋美術史からの出題だが, 難易度はそれほど高くない。設問2, シノワズリの流行は近世ヨーロッパの出来事。19世紀後半に流行したのはジャポニズムと呼ばれる日本趣味である。また, 世界最初のデパートとされているのはパリのボン=マルシェで, ロンドンのデパートではない。	標準

合格のための学習法

文化構想学部の問題は出題傾向が特徴的なので, 独特の対策が必要になる。古代ギリシア・ローマ史, および文化史は細かい用語まで問われるので, 十分な対策が必要である。とりわけ西洋美術史の問題はほぼ毎年最後の大問で出題されているので, 資料集なども活用しながら覚えておこう。過去問演習の際は, 文化構想学部の問題だけでなく, 出題形式が似ている文学部の過去問も解いておくとよい。また, 近年は本格的な史料読解問題が課される年と, 細かな用語が問われる年が法則性無く入れ替わっており, 予測が難しい。少なくとも共通テストの演習も用いて史料読解には慣れておきたい。